

浜の活力再生プラン
令和6～10年度
第3期

1 地域水産業再生委員会

組織名	対馬地区地域水産業再生委員会（上県町漁協地区）
代表者名	会長 船津博也（佐須奈漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	厳原町漁業協同組合・阿須湾漁業協同組合・美津島町高浜漁業協同組合・美津島町西海漁業協同組合・美津島町漁業協同組合・豊玉町漁業協同組合・峰町東部漁業協同組合・上県町漁業協同組合・佐須奈漁業協同組合・上対馬南漁業協同組合・上対馬町漁業協同組合・長崎県対馬市・長崎県（対馬振興局）・長崎県漁連（対馬事業所）
オブザーバー	—

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	<p>【地域の範囲】対馬市（上県町漁業協同組合管轄区域）</p> <p>【漁業の種類】一本釣り（イカ釣り含む。）・延縄・採介藻漁業：103経営体、アナゴ籠漁業：6経営体、定置網漁業：2経営体 【計111経営体】</p> <p>（令和5年4月1日現在）</p>
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>当地域は、対馬西側の北部、韓国まで約50キロの国境に面した場所に位置し、主に、6月から12月までイカ、サバ等を対象にした一本釣り漁業、クロマグロ（ヨコワ）を対象にした曳縄漁業、12月から翌年5月までアカムツを対象にした延縄漁業、12月から翌年3月までアワビ、サザエを対象にした採介藻漁業、そして通年行われるアナゴ籠漁業を行っている。</p> <p>特に、一本釣り漁業者は、その時期に応じ、イカ釣り、延縄、曳縄、採介藻漁業を複合的に営むことで経営を維持している。</p> <p>平成20年から、アカムツを主体とした延縄漁業による水揚げが増え、当地区の総水揚げに占める割合が65%を超えている。</p> <p>その反面、イカ等の一本釣り漁業、ヨコワの曳縄漁業、アワビ・サザエの素潜り漁業を主とする漁業者は、クロマグロの漁獲制限や磯焼けによるアワビ、海藻類の減少により厳しい経営状態が続いている。</p> <p>このような状況の中、第1期浜の活力再生プランの目標のひとつである、アカムツ、アナゴ、サバ等の規格統一、PR活動による需要拡大によって魚価は安定している。特にアカムツの平均キロ単価は、平成20年の1.5倍を維持している。</p> <p>それに伴い、アカムツ延縄漁業とアナゴ籠漁業では、県・市の新規就業者育成事業等によって後継者が増加している。</p> <p>地域全体では、令和5年4月に伊奈漁業協同組合と合併し、現在、正組合員130名、准組合員199名あわせて329名で経営の安定化を図っている。</p> <p>当地域では生産コストの削減及び漁業所得の向上を図る上で、船底清掃や減速航行による燃油コスト削減に努め、併せて、漁業経営セーフティーネット構築事業に加入し国、県、市と一体となり燃油高騰対策に取り組んでいる。</p> <p>各魚種の資源管理に努めるとともに、魚価向上を図るために、規格統一や販路拡大に着手し、その結果、平均単価を引き上げることに繋がった。</p> <p>10年以上かけて、漁業者自らが、ウニ類、貝類の駆除作業を行うことで藻場の回復に取り組んでいるが、持続的な藻場形成までには至っていない。</p>

(2) その他の関連する現状等

当地域の総人口は減少の一途を辿っており、高齢化についても、長崎県や全国に比べ早いペースで進行している。

現状を打破するためには、若者を中心とした移住・定住の促進、企業誘致などによる雇用の創出、観光客や企業研修、修学旅行の受入れによる交流人口の増加などが必要である。

市が進める水産業関連の施策としては、海業の推進が掲げられており、国のモデル地区に選定された上対馬地区を中心に、漁港や既存施設の有効活用による漁村の交流人口増加、雇用の創出、地域内所得の向上などを図ることとしている。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

近年、地球温暖化による海水温の上昇等で回遊経路の変化、水産資源の減少が懸念される。

水揚げ量の増加が見込めない中、漁業経営の安定化を図るため、漁業者自らが減速航行、船底清掃等を行いコスト削減に向けた努力を続ける。

漁業収益の向上を図るため、新たな販路の開拓、アカムツのブランド「紅腫」に続く新たな魚種（サバ）のブランド化を推進するとともに、出荷時の鮮度向上およびサイズ等の規格統一の徹底を漁協と漁業者が連携し実施することで、市場評価を高めていく。

資源の維持回復に努め、放流事業や沿岸清掃等、国等の支援事業を活用した取り組みを行うことで、持続的に利用可能な漁場環境の維持を行う。

また、漁業者の高齢化対策として漁業後継者の育成に力を入れるとともに、漁協の経営基盤の強化のため、旧上県町管内漁協による合併協議を継続し、地域漁業の維持・発展に努める。

以上、本プランでは、上記（1）に記した前期取組みを通じて得られた成果や課題等を踏まえ、上記を基本方針と定め、次の取組を行う。

1. 漁業収入を向上させる取組

① 鮮度の維持・向上及び魚価向上に向けた取組

- ・ サバについて、生簀を準備しての活メ出荷や、いなサバの規格統一・徹底、アカムツについては金沢・福岡・東京以外への販路拡大に取り組む。

2. 漁業コスト削減の取組

① 減速航行の実施徹底

- ・ 出漁、帰港時に12ノットから10ノットへの減速航行（2ノットの減速）を徹底する。
- ・ 船底とプロペラ等の清掃の年2回実施を徹底する。

② 省エネ機器等導入促進

- ・ 省エネ機器への機関換装を行い、燃油費の削減を促進する。

3. 漁村の活性化のための取組

- ・ 高齢のアカムツ延縄漁業者で、後継者がいない1人乗りの漁業者に新規就業者育成事業等

を推進し漁業者の確保に努める。

(3) 資源管理に係る取組

長崎県漁業調整規則による採捕制限（アワビ10cm以下、サザエ2.5cm以下、ブリ15cm以下の採捕禁止）を徹底することで水産資源の適切な管理を行う。

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和6年度） 所得向上率（基準年比）2.5%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①【鮮度保持及び規格統一の徹底、ブランド化に向けた取組】</p> <p>《一本釣り漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サバは、通常時の箱立てにおいて鮮度維持や規格統一は進んできたものの、大漁時には市場において安価で取引されるケースが多い。このため、漁業者は個人で生簀を準備して、ギリギリまでサバを活かして活ジメ出荷を実施する。 伊奈地区では、平成21年度から一本釣りで漁獲したサバを「いなサバ」のネーミングで売り出しているが、今後、「いなサバ」の市場での評価を更に高めるため、漁業者は、釣り上げたサバをすぐに水氷に入れ6時間以上保冷庫で保管し、出荷の際は魚体に傷が無いか確認のうえ、一箱の出荷重量が必ず5kgから5.5kgになるよう、鮮度保持及び規格統一を徹底する。 ・イカは、漁協、漁業者が市場ニーズに合った出荷基準（箱の入り数、氷の度合い、イカの色、艶など）を市場調査し、その結果をとりまとめて改善案を検討整理して漁業者に周知、徹底することで市場評価を高める。また、市場と漁協が連携し出荷後の評価を確認し、漁協が評価に基づく改善点を整理して漁業者に対する指導を行い、出荷基準の更なる統一を図ることで魚価向上を目指す。また、漁協は流通業者に対し、出荷作業の際に箱を傾けないよう依頼する。 ・アカムツは、平成17年度から「紅瞳」と銘打って主に福岡、金沢、東京方面へ出荷し高評価で流通している。しかし、連休や豊漁時に価格の低下が生じているため、漁協は新たな販路を拡大することで価格の低下を防ぎ、流通量拡大を図る。併せて、市場ニーズに応じ小さいサイズも出荷することで顧客層を広げ、漁業者の収入増を目指す。また、地元の加工業者が「のどぐろの開き」としてインターネットで販売を行っているが、当該加工業者と連携することで「紅瞳」の価値を高める。 加えて、更なる知名度の向上のためポスター、卓上メモ、クリアファイルを作成・配布し、市場や関係団体へPRする。 <p>《アナゴ籠漁業・定置漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一本釣り漁業と同様、鮮度向上と出荷規格の統一により、平均単価を向上させる。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、出漁、帰港時に12ノットから10ノットへの減速航行（2ノットの減速）を徹底し、基準年度に対し3.8%の燃油費の削減を目指す。 ・全漁業者は、船底とプロペラ等の清掃の年2回実施を徹底し、基準年度に対し1.2%の燃油費の削減を目指す。 ・漁協は、漁業者に対して省エネ機器への機関換装を促し、燃油費の削減を促進する。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>高齢のアカムツ延縄漁業者で、後継者がいない1人乗りの漁業者に新規就業者育成事業等を推進し漁業者の確保に努める。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業 漁業経営セーフティーネット構築事業 離島漁業再生支援交付金事業 漁船リース事業 漁業と漁村を支える人づくり事業</p>

2年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）4.5%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①【鮮度保持及び規格統一の徹底、ブランド化に向けた取組】</p> <p>《一本釣り漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サバは、通常時の箱立てにおいて鮮度維持や規格統一は進んできたも
---------------------	--

	<p>のの、大漁時には市場において安価で取引されるケースが多い。このため、漁業者は個人で生簀を準備して、ギリギリまでサバを活かして活ジメ出荷を実施する。</p> <p>伊奈地区では、平成21年度から一本釣りで漁獲したサバを「いなサバ」のネーミングで売り出しているが、今後、「いなサバ」の市場での評価を更に高めるため、漁業者は、釣り上げたサバをすぐに水氷に入れ6時間以上保冷庫で保管し、出荷の際は魚体に傷が無い確認のうえ、一箱の出荷重量が必ず5kgから5.5kgになるよう、鮮度保持及び規格統一を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イカは、漁協、漁業者が市場ニーズに合った出荷基準（箱の入り数、氷の度合い、イカの色、艶など）を市場調査し、その結果をとりまとめて改善案を検討整理して漁業者に周知、徹底することで市場評価を高める。また、市場と漁協が連携し出荷後の評価を確認し、漁協が評価に基づく改善点を整理して漁業者に対する指導を行い、出荷基準の更なる統一を図ることで魚価向上を目指す。また、漁協は流通業者に対し、出荷作業の際に箱を傾けないよう依頼する。 ・アカムツは、平成17年度から「紅瞳」と銘打って主に福岡、金沢、東京方面へ出荷し高評価で流通している。しかし、連休や豊漁時に価格の低下が生じているため、漁協は新たな販路を拡大することで価格の低下を防ぎ、流通量拡大を図る。併せて、市場ニーズに応じ小さいサイズも出荷することで顧客層を広げ、漁業者の収入増を目指す。また、地元の加工業者が「のどぐろの開き」としてインターネットで販売を行っているが、当該加工業者と連携することで「紅瞳」の価値を高める。 <p>加えて、更なる知名度の向上のためポスター、卓上メモ、クリアファイルを作成・配布し、市場や関係団体へPRする。</p> <p>《アナゴ籠漁業・定置漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一本釣り漁業と同様、鮮度向上と出荷規格の統一により、平均単価を向上させる。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、出漁、帰港時に12ノットから10ノットへの減速航行（2ノットの減速）を徹底し、基準年度に対し3.8%の燃油費の削減を目指す。 ・全漁業者は、船底とプロペラ等の清掃の年2回実施を徹底し、基準年度に対し1.2%の燃油費の削減を目指す。 ・漁協は、漁業者に対して省エネ機器への機関換装を促し、燃油費の削減を促進する。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>高齢のアカムツ延縄漁業者で、後継者がいない1人乗りの漁業者に新規就業者育成事業等を推進し漁業者の確保に努める。</p> <p>漁協合併を協議する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業 漁業経営セーフティーネット構築事業 離島漁業再生支援交付金事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 漁業と漁村を支える人づくり事業</p>

3年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比）6.4%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①【鮮度保持及び規格統一の徹底、ブランド化に向けた取組】</p> <p>《一本釣り漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サバは、通常時の箱立てにおいて鮮度維持や規格統一は進んできたものの、大漁時には市場において安価で取引されるケースが多い。このため、漁業者は個人で生簀を準備して、ギリギリまでサバを活かして活ジメ出荷を実施する。 <p>伊奈地区では、平成21年度から一本釣りで漁獲したサバを「いなサバ」のネーミングで売り出しているが、今後、「いなサバ」の市場での</p>
---------------------	--

	<p>評価を更に高めるため、漁業者は、釣り上げたサバをすぐに水氷に入れ6時間以上保冷庫で保管し、出荷の際は魚体に傷が無いか確認のうえ、一箱の出荷重量が必ず5kgから5.5kgになるよう、鮮度保持及び規格統一を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イカは、漁協、漁業者が市場ニーズに合った出荷基準（箱の入り数、氷の度合い、イカの色、艶など）を市場調査し、その結果をとりまとめて改善案を検討整理して漁業者に周知、徹底することで市場評価を高める。また、市場と漁協が連携し出荷後の評価を確認し、漁協が評価に基づく改善点を整理して漁業者に対する指導を行い、出荷基準の更なる統一を図ることで魚価向上を目指す。また、漁協は流通業者に対し、出荷作業の際に箱を傾けないよう依頼する。 ・アカムツは、平成17年度から「紅瞳」と銘打って主に福岡、金沢、東京方面へ出荷し高評価で流通している。しかし、連休や豊漁時に価格の低下が生じているため、漁協は新たな販路を拡大することで価格の低下を防ぎ、流通量拡大を図る。併せて、市場ニーズに応じ小さいサイズも出荷することで顧客層を広げ、漁業者の収入増を目指す。また、地元の加工業者が「のどぐろの開き」としてインターネットで販売を行っているが、当該加工業者と連携することで「紅瞳」の価値を高める。加えて、更なる知名度の向上のためポスター、卓上メモ、クリアファイルを作成・配布し、市場や関係団体へPRする。 <p>《アナゴ籠漁業・定置漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一本釣り漁業と同様、鮮度向上と出荷規格の統一により、平均単価を向上させる。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、出漁、帰港時に12ノットから10ノットへの減速航行（2ノットの減速）を徹底し、基準年度に対し3.8%の燃油費の削減を目指す。 ・全漁業者は、船底とプロペラ等の清掃の年2回実施を徹底し、基準年度に対し1.2%の燃油費の削減を目指す。 ・漁協は、漁業者に対して省エネ機器への機関換装を促し、燃油費の削減を促進する。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>高齢のアカムツ延縄漁業者で、後継者がいない1人乗りの漁業者に新規就業者育成事業等を推進し漁業者の確保に努める。</p> <p>漁協合併を協議する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業 漁業経営セーフティネット構築事業 離島漁業再生支援交付金事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 漁業と漁村を支える人づくり事業</p>

4年目（令和9年度） 所得向上率（基準年比）8.4%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①【鮮度保持及び規格統一の徹底、ブランド化に向けた取組】</p> <p>《一本釣り漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サバは、通常時の箱立てにおいて鮮度維持や規格統一は進んできたものの、大漁時には市場において安価で取引されるケースが多い。このため、漁業者は個人で生簀を準備して、ギリギリまでサバを活かして活ジメ出荷を実施する。 <p>伊奈地区では、平成21年度から一本釣りで漁獲したサバを「いなサバ」のネーミングで売り出しているが、今後、「いなサバ」の市場での評価を更に高めるため、漁業者は、釣り上げたサバをすぐに水氷に入れ6時間以上保冷庫で保管し、出荷の際は魚体に傷が無いか確認のうえ、一箱の出荷重量が必ず5kgから5.5kgになるよう、鮮度保持及び規格統一を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イカは、漁協、漁業者が市場ニーズに合った出荷基準（箱の入り数、氷の度合い、イカの色、艶など）を市場調査し、その結果をとりまとめ
---------------------	---

	<p>て改善案を検討整理して漁業者に周知、徹底することで市場評価を高める。また、市場と漁協が連携し出荷後の評価を確認し、漁協が評価に基づく改善点を整理して漁業者に対する指導を行い、出荷基準の更なる統一を図ることで魚価向上を目指す。また、漁協は流通業者に対し、出荷作業の際に箱を傾けないよう依頼する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカムツは、平成17年度から「紅瞳」と銘打って主に福岡、金沢、東京方面へ出荷し高評価で流通している。しかし、連休や豊漁時に価格の低下が生じているため、漁協は新たな販路を拡大することで価格の低下を防ぎ、流通量拡大を図る。併せて、市場ニーズに応じ小さいサイズも出荷することで顧客層を広げ、漁業者の収入増を目指す。また、地元の加工業者が「のどぐろの開き」としてインターネットで販売を行っているが、当該加工業者と連携することで「紅瞳」の価値を高める。 <p>加えて、更なる知名度の向上のためポスター、卓上メモ、クリアファイルを作成・配布し、市場や関係団体へPRする。</p> <p>《アナゴ籠漁業・定置漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一本釣り漁業と同様、鮮度向上と出荷規格の統一により、平均単価を向上させる。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、出漁、帰港時に12ノットから10ノットへの減速航行（2ノットの減速）を徹底し、基準年度に対し3.8%の燃油費の削減を目指す。 ・全漁業者は、船底とプロペラ等の清掃の年2回実施を徹底し、基準年度に対し1.2%の燃油費の削減を目指す。 ・漁協は、漁業者に対して省エネ機器への機関換装を促し、燃油費の削減を促進する。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>高齢のアカムツ延縄漁業者で、後継者がいない1人乗りの漁業者に新規就業者育成事業等を推進し漁業者の確保に努める。</p> <p>漁協合併を協議する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業 漁業経営セーフティネット構築事業 離島漁業再生支援交付金事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 漁業と漁村を支える人づくり事業</p>

5年目（令和10年度） 所得向上率（基準年比）10.3%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①【鮮度保持及び規格統一の徹底、ブランド化に向けた取組】</p> <p>《一本釣り漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サバは、通常時の箱立てにおいて、鮮度維持や規格統一は進んできたものの、大漁時には市場において安価で取引されるケースが多い。このため、漁業者は個人で生簀を準備して、ギリギリまでサバを活かして活ジメ出荷を実施する。 <p>伊奈地区では、平成21年度から一本釣りで漁獲したサバを「いなサバ」のネーミングで売り出しているが、今後、「いなサバ」の市場での評価を更に高めるため、漁業者は、釣り上げたサバをすぐに水氷に入れ6時間以上保冷庫で保管し、出荷の際は魚体に傷が無いか確認のうえ、一箱の出荷重量が必ず5kgから5.5kgになるよう、鮮度保持及び規格統一を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イカは、漁協、漁業者が市場ニーズに合った出荷基準（箱の入り数、氷の度合い、イカの色、艶など）を市場調査し、その結果をとりまとめて改善案を検討整理して漁業者に周知、徹底することで市場評価を高める。また、市場と漁協が連携し出荷後の評価を確認し、漁協が評価に基づく改善点を整理して漁業者に対する指導を行い、出荷基準の更なる統一を図ることで魚価向上を目指す。また、漁協は流通業者に対し、出荷作業の際に箱を傾けないよう依頼する。 <ul style="list-style-type: none"> ・アカムツは、平成17年度から「紅瞳」と銘打って主に福岡、金沢、東
---------------------	--

	<p>京方面へ出荷し高評価で流通している。しかし、連休や豊漁時に価格の低下が生じているため、漁協は新たな販路を拡大することで価格の低下を防ぎ、流通量拡大を図る。併せて、市場ニーズに応じ小さいサイズも出荷することで顧客層を広げ、漁業者の収入増を目指す。また、地元の加工業者が「のどぐろの開き」としてインターネットで販売を行っているが、当該加工業者と連携することで「紅瞳」の価値を高める。</p> <p>加えて、更なる知名度の向上のためポスター、卓上メモ、クリアファイルを作成・配布し、市場や関係団体へPRする。</p> <p>《アナゴ籠漁業・定置漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> 一本釣り漁業と同様、鮮度向上と出荷規格の統一により、平均単価を向上させる。
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 全漁業者は、出漁、帰港時に12ノットから10ノットへの減速航行（2ノットの減速）を徹底し、基準年度に対し3.8%の燃油費の削減を目指す。 全漁業者は、船底とプロペラ等の清掃の年2回実施を徹底し、基準年度に対し1.2%の燃油費の削減を目指す。 漁協は、漁業者に対して省エネ機器への機関換装を促し、燃油費の削減を促進する。
漁村の活性化のための取組	<p>高齢のアカムツ延縄漁業者で、後継者がいない1人乗りの漁業者に新規就業者育成事業等を推進し漁業者の確保に努める。</p> <p>漁協合併を協議する。</p>
活用する支援措置等	<p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p> <p>漁業経営セーフティネット構築事業</p> <p>離島漁業再生支援交付金事業</p> <p>水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業</p> <p>漁業と漁村を支える人づくり事業</p>

(5) 関係機関との連携

長崎県対馬振興局水産課、長崎県対馬水産業普及指導センター及び対馬市並びに県漁連などの関係団体と情報交換を密にすることで、市場ニーズを的確に把握し、漁協と漁業者が連携しながら魚価向上に取り組むとともに、前記団体の指導を受けながら鮮度保持や販路拡大に向けた取り組みを行う。

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プランの取組の成果を評価・分析するため、委員会は、毎年度定期的開催する会員会議において、浜プラン中間報告書をもとに委員会事務局が策定した浜プラン評価案を審議・決定し、次年度の取組の改善等につなげる。

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の向上10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

燃料費の抑制	基準年	平成30～令和4年度 5中3平均：	57,802	(千円)
	目標年	令和10年度：	54,912	(千円)
漁業後継者の確保	基準年	平成30～令和4年度 5中3平均：	2	(人)
	目標年	令和10年度：	5	(人)

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>船底とプロペラ等の年2回の清掃と、減速航行の取組により見込まれる燃料費削減の効果により目標最終年度に5%の削減効果を見込んでいる。</p> <p>当漁協はアカムツの単価向上等により延縄漁業などで好景気が続いているものの、漁業者の高齢化が進み、漁業の継続が危ぶまれる経営体が複数ある。このため、県の「漁業と漁村を支える人づくり事業」等を活用した後継者の育成、新規漁業者の確保を図ることとし、令和4年度までの5ヶ年平均で、同事業により2名の漁業後継者を確保していることから、令和10年度までにこれを5名に増やすことを目標とする。</p>

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	機関換装による燃油消費量の削減
漁業経営セーフティネット構築事業	漁業者が一体となり燃油コストを抑制することで、安定的な漁業経営を図る。
離島漁業再生支援交付金	魚価向上に向けた取組を実施し、漁業所得の向上を図る。
漁業と漁村を支える人づくり事業	新規漁業者の確保・育成に取り組み地域の活力を維持する。
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業	中核的漁業者に対する漁船リース事業
特定有人国境離島漁村支援交付金	新規漁業就業者に対する漁船リース事業